



東 北 方 面

仙臺驛前道路の舗装工事

仙臺驛前通りのうち名掛町角から北へ元寺小路行當りまでの歳徳横町に屬する街路は、電車敷設のため市區改正を實施し、歩車道の區別を設けることとなつたので、町内では先づ歩道の舗装を行ふ計劃を樹て、

過般來工事實の半額に當る寄附金を募集中であつたが、漸く全部の申込みを了するこゝとが出来たので、代表者連署の上十一月二日付市長宛に寄附願ひを差出したから不日

起工の運びに至るであらう。なほ同驛前通りの内裏五番町角から、名掛町角までの間は、府縣道に屬する關係で未だに舗装工事が施されてゐない爲、有志者連はこの際寄附を募つて之を實現したいといふので頻りに奔走中である。

仙鹽連絡道路改良

仙臺市と鹽釜築港とを連絡する所謂仙鹽道路は昨年新たに開通されて以來相當に利用はされてゐたが、新道のことゝて地盤等の關係から交通に困難を感じ、殊に冬季に於ては大惡路と變化するため、利用者が非

常に少く貨物運送などもこれのために阻害されてゐたが、山口仙臺市長が土木課長時代に着手した改良工事が、このほどに至り一先終了したので、今後は仙臺鹽釜間の貨物陸運方面は勿論のこと、その他の方面にもこの仙鹽道路が實際に利用され得ることとなつた。

立町道路擴張工事は立消か

宮城縣石の巻町準都市計劃の第一歩として、計劃中の立町道路擴張について地主會の大半と一部地主との間に最近紛擾を醸しつゝあるが、十一月九日に至り地主二十餘名連署の上宇和野町長に對し請願書を提出した。其の内容は立町道路擴張について八萬圓の中、町から六萬圓、地主から二萬圓を支出し、六間幅に改造せんとするのは姑息的なもので、殊に公平を缺く點が少くない立町全部の地主が一致してゐるものゝ如く傳へるのは、一部策士間の流説で、多く

の地主は今回の姑息な擴張案と不公平の嫌ひあるに反對して居り、而も財界不況が續いて窮乏してゐる今日、完全に擴張するとは不可能であるから一時見合せ財界の一轉機を見た曉に根本的に擴張を斷行されたいといふのである。これによつて見ると地主會の従來の方針は大多數のものでなく地主の間に紛訟を來してゐることは明かで、折角纏まりかけた擴張案も、前記二十餘名の反對演説が強硬であるとすれば、いかに町當局が躍起となつても結局實現はむづかしからうとのことだが、町當局では縣當局と協議の上土地收用法を適用して斷行するか若くは立町幹道を廢して新たに第二案の橋通りから商銀脇を裏に抜けて停車場前に直線の道路を開設するか二途より外に術なく、果してどの方法をとるか一般から注目されてゐる。

北越方面

南魚中之島道路改修

新潟縣南魚沼郡中之島村は先年來道路の改修について頭をなやましつゝあつたが、阿部前村長は萬難を排してこれを解決すべく、村會にはかつて既に大字大里から鹽澤へ通ずる前橋及大字坪池から石打村東之木へ通ずる坪池橋の二橋を架設し、村の中央から鹽澤町大字中へ通ずる中野橋は縣費を以て架設したから、村の交通上にはこの上ない幸福を得たけれ共、村内の道路は依然として舊態を存し、機會あることにこれが改修の意見を有してゐたが、村經濟の都合上僅かに一小部分を變成したのみで、遂に退職するの止むなきに至つたので、現館野村長は飽まで前村長の意志を繼承して、昨年來道路の改修設計をたて、十一月十四日に村會招集の上これを諮問したが、延長は約一里半之に要する總工費は一萬六千圓餘である。

東海方面

名古屋市が街路樹と

鋪裝で美しい街を造る

愛知縣名古屋市では明年度新事業の一つとして、約七十萬圓を投じ道路の鋪裝と街路樹の整理を行ひ、大都市として恥かしからぬ街を造るべく計劃してゐる。

先づ名古屋驛前の廣場は木煉瓦をもつて半永久的堅牢な鋪裝をなし、廣小路通、大津町線、高岳町、岩井町、覺王山線、本町通り熱田傳馬町はシートアスファルトを用ひ、萬松寺の盛り場はコンクリートを用ひる筈である。又街路樹は廣小路通り停車場から、納屋橋まで銀杏、東新町から西裏まで銀杏、大津町は榮町角から矢場町五ノ切までプラタナス、金山橋まで柳、神宮前までプラタナス、岩井線に銀杏、その他場末にはアカシヤを植ゑることにまつた。さら

に千早高岳各線十一間道路には、新しく歩車道の區別を設けるなど、大に面目を一新する筈である。

村民の夫役で

府縣道本郷線改修

愛知縣北設樂郡本郷町から遠州中部に通ずる府縣道本郷佐久間線の改修工事中下川村地内六百五十間の昭和二年度工事は本春大部分の工事を終り、今秋之れが残務整理を行ふさうであるが、下川村民は公共的觀念に厚く、これまでも改修毎に村夫役として義務出勤をなし大に助力したが、今回の工事に際しても既に一千七百工の出勤あり、今回の残務整理工事に四百工の村夫役出勤の豫定である。

近畿方面

青年團の道路修理

兵庫縣加古郡八幡村道路愛護團は、曩に縣の道路品評會で大に道路愛護の實を擧げ二等賞に入賞した程だが、その後道路に凸凹を生じ最近雜草さへ生じて見る影もない有様となつてゐるにも拘らず、誰顧みりもなく道路愛護團は全く有名無實の姿となつてゐた。この有様を遺憾として部内第五部(上西條)團長は、團員を督して受持部内の道路に大修繕を加へ全く面目を一新した。これに刺戟されて他の各部に於ても修繕を行はんとするものが出て來て、同村は再び曩日の道路愛護の模範村とならうとしてゐる。

中國方面

山陰道第一の大鐵橋

日野橋の改築起工せる

國道十八號路線鳥取縣西伯郡巖、車尾兩村入會縣下三大河川の一である日野川に架設せられた日野橋は山陰の大坂とも稱せらるべき米子市の咽喉部に位し運輸交通上最も重要な橋梁であるが、明治二十六年の架設に係るを以て橋體全部に涉り腐朽甚しく現在ば車輛の進行速度並重量の制限を爲し辛うじて交通しつゝある狀況で、之が架換は鳥取縣多年の懸案であつたが今回愈々工費金四十拾四萬圓を以て昭和二年度より昭和四年度に至る三箇年繼續事業として實施せらるゝこととなつた、同橋の設計は「ツーン」型曲弦鋼構を採り全長三百六十五米一徑間六十米六連よりなり構高六米乃至十米樁の心々距離七米三有効幅員六米四であつて橋面積は二千三百四十一平方米を有し橋高は大洪水位上一米五である、而して橋臺及橋脚は何れも鐵筋「コンクリート」よりなり直徑二米二高さ四米五の二柱を樹て之が基礎は鐵筋「コンクリート」を以て

し橋面及橋床は厚さ六寸の鐵筋「コンクリート」床版で其の上には厚さ一寸半の「アスファルト、アロック」を以て鋪裝せらるゝものである。

之が架換に伴ひ前後取付道路延長三百六十米の間國道の變更が行はれる筈である。

同工事の起工式は十一月二日工事現場に於て盛大に舉行せられたが同橋竣工の曉は外觀の美と相俟つて山陰道第一の名橋となるであらう(地方報告主任村上屬)

四 國 方 面

道路幅員擴張工事起工式

徳島縣管内府縣道脇町川ノ江線、三好郡箸藏村洲津の道路は、從來幅員狭く人馬の往來に支障を來して居つたが、縣當局に於ては其の交通情勢に鑑み、工費九千二百四十八圓を以て、延長二百九十一間に亘り路

幅を二間に擴張することになり、十二月二十九日箸藏小學校に於て起工式を舉行した。

式 辭

府縣道脇町川之江線道路改修ノ計成リ本日ナトシテ起工ノ式典ヲ舉グルニ至レルハ洵ニ欣快トスル所ナリ惟フニ地方文化ノ進歩産業ノ發達ヲ促進スルノ途多岐アリト雖モ交通施設ノ改善ニ俟ツ所最モ大ナリ本線ハ吉野川北岸各町村ヲ連結シテ愛媛縣ニ通スル要路ニシテ交通上重要ノ關係ヲ有スルニ拘ラス本邦箸藏佐馬地兩村地内約二里ニ亘リ幅員狭少ニシテ車輛ノ交通ニ適セス時運ノ進歩ニ伴ハサルコト甚シキモノアリ茲ニ於テ地方人ハ多年之レカ改修ノ必要ヲ絶叫シテ歎マス昨年遂ニ縣會ノ議決ヲ經茲ニ其ノ實現ヲ見ルニ至レリ惟フニ本線ノ改修ハ管ニ地方交通上裨益スル所多大ナルノミナラス實ニ關縣ノ福利ヲ増進スル所亦鮮少ナラサルヘシ然レトモ今回計劃ノ工事ハ僅

ニ其ノ一部分ニ過キスシテ全線ノ竣功ヲ期スルニハ縣財政ノ關係上前途尙幾多ノ歲月ト鉅額ノ工費ヲ要スヘシ冀クハ將來官民一致シテ之レカ完成ヲ圖リ以テ有終ノ美ヲ齊スニ至ラシメンコトヲ一言ヲ述ヘテ式辭トス

昭和二年十月二十九日

徳島縣知事 三 邊 長 治

徳島縣管内吉田橋の開通式

勝浦平野北に展げて銀鱗躍る勝浦の諸流を中に挟み、劍山支脈の紅鬚翠巒に圍まれて、五穀豐穰し、人情豊に幾多の名勝古蹟を抱擁する勝浦郡多家良村は、實に平和の樂園である。金風靜かに襟元を撫し、垂穂の稻の黄金波打つ此の理想郷に、多家良村役場と徳島鐵道を結び、更に名勝丈六寺と中津峯山を連絡する府縣道宮井地藏線の八多川を跨ぐ所に、架設せられてゐる吉田橋が、村内交通の要衝であるに拘らず、久し

不完全な木橋の儘に置かれ、將に朽廢せんとするに際し、漸く村民多年の渴望容れられて鐵筋混凝土の完全なる新橋に架け替へられ、工全くなり十月三十日午前十時半から新橋々々に於て開通式を舉行せられた。

氣遣はれた夜來の雨も漸く霽れて、秋空一碧玩ぶが如く戸々の軒頭には國旗を掲げて、今日の佳き日を祝福し、式場の入口には大アーチが建設され、橋の兩側は此の盛觀に接し様とする老若男女を以て埋められた。來賓は縣土木課長を始めとし關係有志百餘名列席、一同起立裡に修祓、降神の行事型の如く齋主の玉串奉奠に次いで昇神の行事があり後知事の式辭、工區長の工事報告其他諸氏の祝辭があつて十一時半閉會した。

此の吉田橋の開通は同村にとつて新しい歡喜でなければならぬ、此上は更に村發展の一步を進むべく、中津山麓に至る自動車

路が開修と野上橋の縣營並に架設を期し村民一致して發奮努力すると共に、縣當局を動かして縣會議員を督勵して、其の實現に努めるのが眼前に提供された重要な問題であらう。知事の式辭及工事報告を載せて筆を擱く。(地方報告主任)

式 辭

工事概要

希クハ本橋ノ改築ヲ期トシテ大ニ之カ利用ノ途ヲ講スルト共ニ益地方文化ノ向上産業ノ發展ニ寄與セラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ式辭トス
昭和二年十月三十日
徳島縣知事 三邊 長 治

府縣道官井地藏停車場線吉田橋改築ノ工成リ本日ナトシテ開通ノ式典ヲ舉グルニ至レルハ詢ニ欣幸トスル所ナリ惟フニ地方開發ノ途多シト雖交通機關ノ完備ヨリ急ナルハナシ本橋ハ勝浦郡山分ノ咽喉ニ位シ靈場如意輪寺ノ通路ニ衝リ運輸交通上重要ノ關係ヲ有スルニ拘ラス從來ノモノハ狹隘ナル木橋ニシテ既ニ腐朽ニ傾キ使用ニ耐ヘサルヲ以テ曩ニ之カ改築ヲ企圖シ本年七月工ヲ起シ日ヲ經ルコト百有餘茲ニ全ク其ノ工ヲ竣フ新橋ハ之ヲ舊橋ニ比スレハ其ノ規模構造共ニ一段ノ進歩改善ヲ爲セルヲ以テ將來交通上遺憾ナキヲ期スルニ足ルヘシ

延長八十六尺、幅員十四尺(有效幅員十二尺)工法、橋臺混凝土、橋脚、鐵筋混凝土、橋面、厚四寸三分の三和土布礫、橋體木桁土橋、欄干、鐵製、取合道路、全幅三間、工費、四千七百六十四圓、着手、昭和二年七月十五日、竣功、昭和二年十月二十五日。